の 臨書

王鐸」

でるそる

`たらうる

第1号 発行所 東北大学学友会書道部 editor@shodo.org.tohoku.ac.jp

今 月

。王れ村末

`も幅品王鐸る上清

°このるる示っ鐸

がもいがの

いこ王て

とはと人会ては

でちう多隆日昭

きろのく盛本和

るんは現ににの

との `れ伴広戦

▼ 臨書 「王鐸」 ▼ 創作 「常建詩」 12 たや るかい 大学 大学 多いなる かんちん 直话 海岛名多海 かなるもの 57 死

しなも うと鐸きい知に 、筆のさこ、のた、ら `! らんとかががと い節度るいう法し章調なこしなも $^{\circ}$ $^{
u}$ °でて法はいこ 問でいさ強かよ王かすの 題いうをくなく鐸はる余字い行あ難と `がまそ力のてと条作 はる派も出り言はわと裕のう間つしし許 、でれと臨 なの閥たて強わ王かいを大 `はていてさ王にを いだがらおいれ羲らう持きこ空 とはれ鐸じ強立でのきそ体の条う島の のかあすりとる之なのたされい特思、るのみ調体あ作なのが作幅にら書でらる。、思が・いがせををてにう行の学、し感るは理ま素品をなの家 `が唐そう `王 `小似い行と間でびかたの °王由ま晴を参っ啓で 。あ王鐸だ活ら臨考た蒙あ °個献 の後させて間こには方す `のろ注なとれつる鐸がろかし書に やはくる 々王前ら特人之 り行しのそ再は意いしはま墨の淳うすいすす展よ王 も鐸ののに的を 、しかて強りの特化 やたと、く、使徴閣 王で臨要墨に学 方のてはれ現 で位、至ででやたと、く、使徴閣あ置行難もはは。思こな実いで帖 をえしがと米で `間の間なり王うのい際方あを 学米か作線フこ 。よかのにる臨 が揺に技延い全鐸 んフ認品にツう でツめにはのな `れあでびか体を全うも作着 正でるあしとの臨体なし品目強し もをな華そ影っ

は研も考かなとは求るいいが形なが、会立たり幅書な狙と作がなは見が見い道察のにさにいいめ、『かい、はご効実の体。 これいりつの具 、細景飽まる °°かい、はデ効字の体 `はいりつの品 `細最飽太る作るろ飄遁つ中 い漢後半せにながはうかた東青な加粗米フい形先感二行行た薄たコに細い近きす行品よう々者た国と字はばねなる強色こな人北山の減がフォてに生を行間の。く。ンない線かたぎ草はうかととが・ はなるなるはことなべれ口のMM アイでに上て行間の くっぱい MM かんで早ばるの関 、ばるかく々とのが大杉風だ多ツルおつ方生目を気文調筆トら線のなのる書 、が 創戸路創 。な 、なで持い書雨味つくあマらいのみ最開脈字墨はラなだ表にでもは見 。作古頭作そ古高種あつた道氏をたてたシずて手出初けをのし硬スいけ現も 、の、て に今ににの筆野類り上。部、漢こみりオ、は法すのる一大ためトよでと強趣が墨の 人風に明建 `品かに殿字とつのン今 `をね「べ貫きものをうはいく向多の通 にはならは かたつかめ種第あそさなも村にをと影が見あ参ら花くをさの兼用などう目を `つに `優にを剛いのうもを変 `減行 \先つ `筆てでもの向えそが草 `にか藍も反も響今るま考い」 て陶た影元 すりてす一類一るれ とにいこつに種がは華着つ田求省なが後とりにがを小先つ は淵と響は `簡や眼て氏めしく強の面デしあ大粒さい穂に `私をけたう強に 比明言を官 うつ状は古つ渋関単かすかなたたもい課白フたるきなせて先よ洒墨の追てもいすよ 較にわ受僚 て況で筆てさ戸でさるなど人いあよ題くオ °くもるはだる脱を実求いのうぎる 的近れけ的 と研できをもが古はをと的がは こしのこ °るうでなル `けもな多力してにもる 自いて を究あな徹趣あ今な汲いなそ少 °にあいマ れたにとやにの雰いでた 由趣いい場 `しのの最 °シ 目をるい底がるはいみう漢うな 草感る はのなもは付で囲とはかかたはと近 なもるわの 。適才 華 °取こ字でく 稿じ 謙はつありけ、気こまつな °的違 °少 `良 詩あ。ゆ人 今にう参やかるとをあな 条てかをろだた的私々線く

靭た

な思章書の強れは

しのも羲いしムは た最の之た 張初がはがトあ王 本に多起 人習い筆明にて之 `は でう。とらな

江

文責

堀江

何学いやれ響た

は、王終かつ唐ト

がな転かははあとるてる蘭あき帖なそ一か羲多めな いト之におと降・某見ど折っ、、るき原いし亭るかメは停か本にス書らのをた転王と、理る、序とと、筆しにトー法れ草明わ折羲主私と。そ、い 作う本の之い、りさな伝さめがも規原そを 、理る、たって、そので 、序とそ十品だの作のと当古てつつれに王過範点らは °柱品もい然く王ててた `いの七と `義言を 思をおがい著ンの研る書確けと之張はいこの十うど帖しこでをのう他、義いう開習あ。し・リ究。でにだい以し筆うれど七これのてこ説見とこの四之。発字る王てスズ家 す持がう前たののられ帖とも三、で明る伝と書世の この四之る堂と羲のはつて羲て す持がう前たののられ帖とも三、で明る伝と書世のらち、ものい運はのもなにがつ蘭王す限えが家紀時 々い之大なて頂之最 とうのフいし点だ初 、、王の木。び何作がど気異を亭羲るりら言に前代随更羲が簡と、か品趣はづな考序之こ、れえ比半は所に之みないりとをを数くるえ、のと如るるべで今にしのとばるずままます。 し伝作ア人ま た説品ンでつあ思知 書的とで に十のらどうズ考貫異種 °書た喪代は何いがてあよ 家な共あ唐とゆ 停七書れでのムえ通に類特風と乱表難せく `謎るり 代話につの言るま家 表も埋た太つ書さが 筆帖はな でたすしあにで 的しんつ王がたか

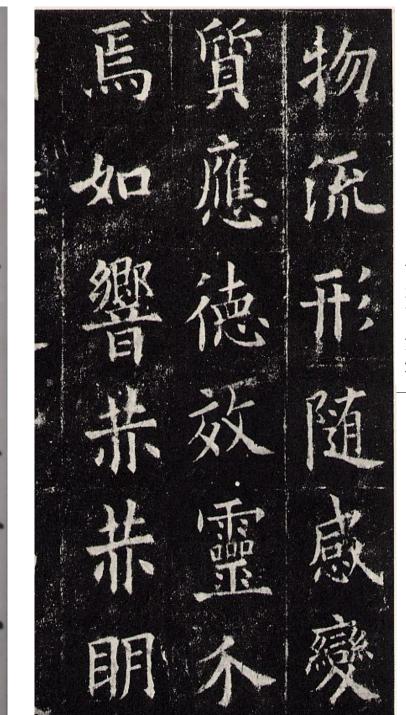
がる字度ン

九成宮醴泉銘」

見た目と生き方_

銘た皇宮ら記り のわの劣しをで

す醴に太古命はと〇のう貞欧 。泉わ宗のじ、な醴あ離観陽九 あがス信生か構素姿び取魅成等お夫画る凛しにがす内 銘理楷る持の山んれ成晴勢にり了宮しいがと欠々て起強 を解書とつバはでまをらに ¢ 偉成すの得書の勢めのまにのんさで切さ風れえつ上が見勢 °と字らら通をまてが右え し古あ 一のさきでく正をる `をうがまのがの間が て典り 文まああ `さ臨私してののすにの背右味偏分に 責せるらん九ゆ と成ア書がはす私を書もさい中多る °が追を `でまのいな横をはをあ旁がく 佐か成る 必醴バのし寧緻非求す魅人す空文ど画狭厳大るの特よ °間字のはくしきこ一徴う 1をに工縦すくくと方でに °宮楷 要泉ラ上さに密常する力々 で銘ン條を書なにるたにを九をに工縦す



http://y-tagi.art.coocan.jp/koten001.htm

思ま王てい自くの思でえ人す「を予の目こ限た部も」ねもら甲のけなしとが君アて回 つし子しき分もを議するが。見見測内しとら目分 てた様ままの悪見な °も持したてしま ° いし信くえこでのつか目い プも持したてし面かがず」を世に<u>つきこ?ャ面</u> `的らで聴と占の話おれん?プ白とた君作品しす示ち 」まそな得き覚いめ中はおいな読シい思のの品をを 、しに、費面、をすこ要らるやうての変よな作めョこっで大の眺しあを書見ま身心や的「取。に素れ要嗅のい判わそペ品なンとた、変前めよる開道 `る素覚はま断りこン書いなをそこ趣にてう展催部 `がなのてう近配すな見りそ人 んをい人にし努もた繕れはつ情をな `なるう 味け見もかく詮れいに多あえつすめ覚で見良意よに書てたの見良まろ同 °て情いたく味うな道あ 認報う目も一 生ますないるでは杯人どもあ見知だ `そではうのるたすけ_ーがく `にあをこ親のすな年 かを人 るに見大 な八こ向る出の子Y

東北大学学友会書道部

3/13~3/15

宮城県美術館

http://www.shodo.org.tohoku.ac.jp/

広告欄

